



つなぐ。 ツクル。

2019年9月期 第2四半期 決算補足説明資料

2019年5月

極東産機株式会社 (6233 東証JASDAQ)

KYOKUTO

©KYOKUTO SANKI CO., LTD. all rights reserved



THE PROFESSIONAL
MACHINES AND TOOLS
SINCE 1948

決算概要

2019年9月期第2Q決算の概要

- 売上高はインダストリーセグメントは順調に推移したものの、プロフェッショナルセグメントでインテリア事業製品の需要端境期、畳事業での補助金決定のズレ等により、期初見通し比4.7%の想定未達
- 利益面でも、売上の想定未達や運送費の増加などが重石となり、営業利益は従来見通し比大幅未達

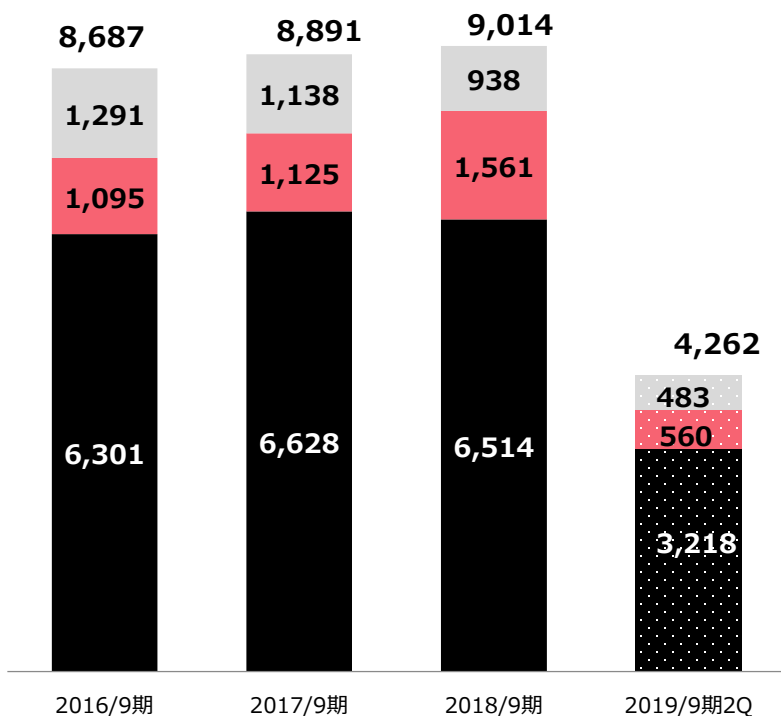
(百万円)	2018/9期	2019/9期2Q		対期初見通し比	
		期初見通し (2018/11)	実績	増減額	増減率
売上高	9,014	4,473	4,262	▲211	▲4.7%
プロフェッショナル	6,514	—	3,218	—	—
コンシューマ	938	—	483	—	—
インダストリー	1,561	—	560	—	—
営業利益	423	167	81	▲86	▲51.5%
プロフェッショナル	121	—	20	—	—
コンシューマ	25	—	2	—	—
インダストリー	276	—	59	—	—
経常利益	381	145	58	▲87	▲60%
当期純利益	303	87	29	▲58	▲67%
営業利益率	4.7%	3.7%	1.9%	▲1.8P	—
経常利益率	4.2%	3.2%	1.4%	▲1.8P	—

- 季節要因の影響は本来軽微なはずながら、今上期はややスロースタートの手応え
- スタート鈍い主因は、補助金タイミングのズレや需要端境期長期化など。特に補助金の影響は期を追って大きくなってきており、徐々に季節変動要因となりつつある

売上高

(百万円)

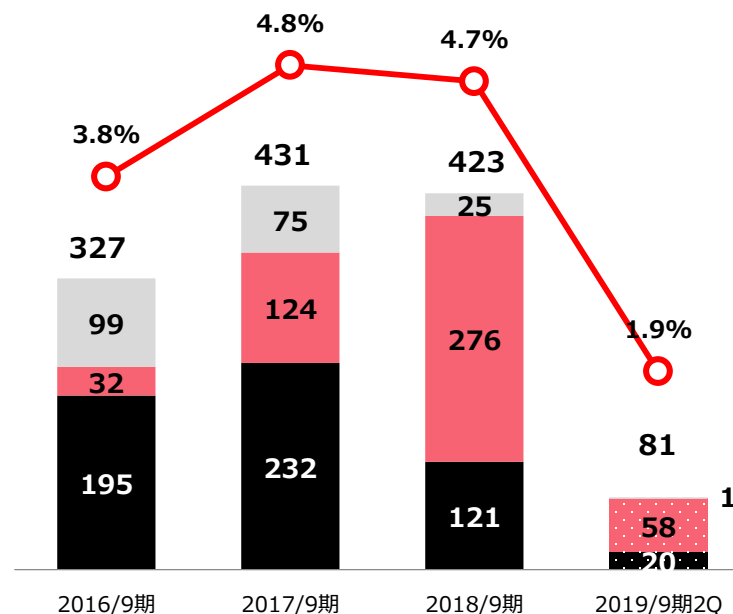
■ プロフェッショナル ■ インダストリー ■ コンシューマ



営業利益・営業利益率

(百万円)

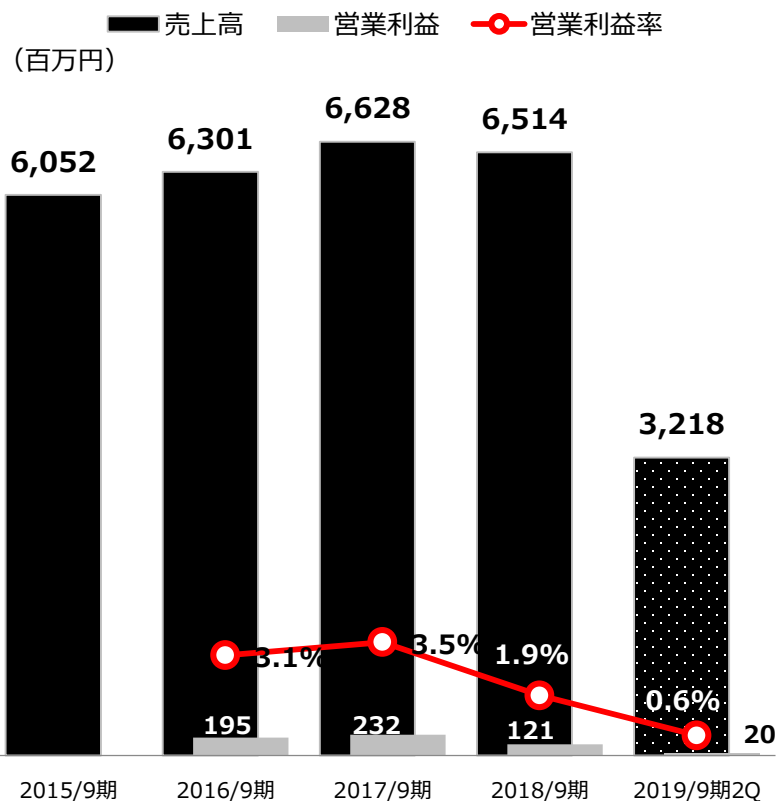
■ プロフェッショナル ■ インダストリー ■ コンシューマ ● 営業利益率



セグメント別事業の状況 ①プロフェッショナルセグメント

- ・ 畳事業では前期の政府補助金影響は回復したものの、今期の補助金を巡って出荷の遅れが一部で発生
- ・ インテリア事業では自動壁紙糊付機で最新機需要が端境期となり、消耗品にもその影響が波及
- ・ コスト面では運送費用の増加も重石となり、営業利益率は低下

売上高・営業利益・営業利益率



(注)2015/9期は監査対象外

主たる変動要因

① 畳関連事業：期初想定に若干の未達

- ✓ 前期にあった中小企業庁「ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金」の認定タイミング遅れによる需要先送りは今上半期で着実に獲得
- ✓ しかし、今年度の「支援補助金」に対し、一部ユーザーで認定待ちが新たに発生。これらは下期に出荷ずれ込み

② インテリア関連：期初想定に未達

- ✓ 自動壁紙糊付機などでの新製品効果一巡が影響。買替需要の踊り場は予想以上に長期化
- ✓ 消耗品関連でも、顧客囲い込みは進捗するも、機械需要踊り場の影響から売上減少

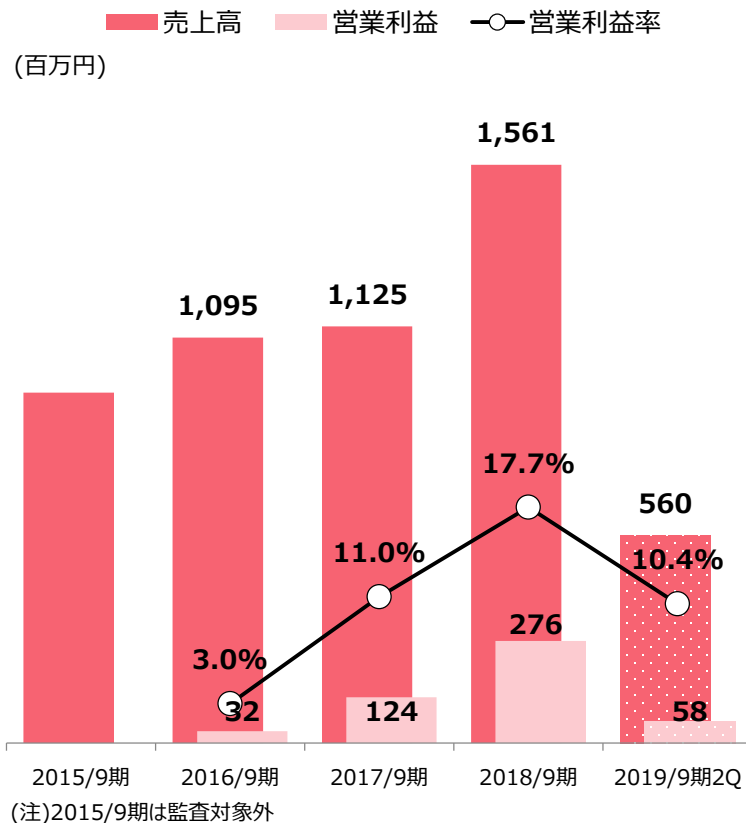
③ コスト

- ✓ 運送費上昇がコストアップ要因に

セグメント別事業の状況 ② インダストリーセグメント

- 受注は堅調に推移。二次電池製造装置の受注好調も継続し、上期は一部製品の前倒し出荷が売上を押し上げ
- 食品機器も需要堅調。人手不足対応機器としても注目集める

売上高・営業利益・営業利益率



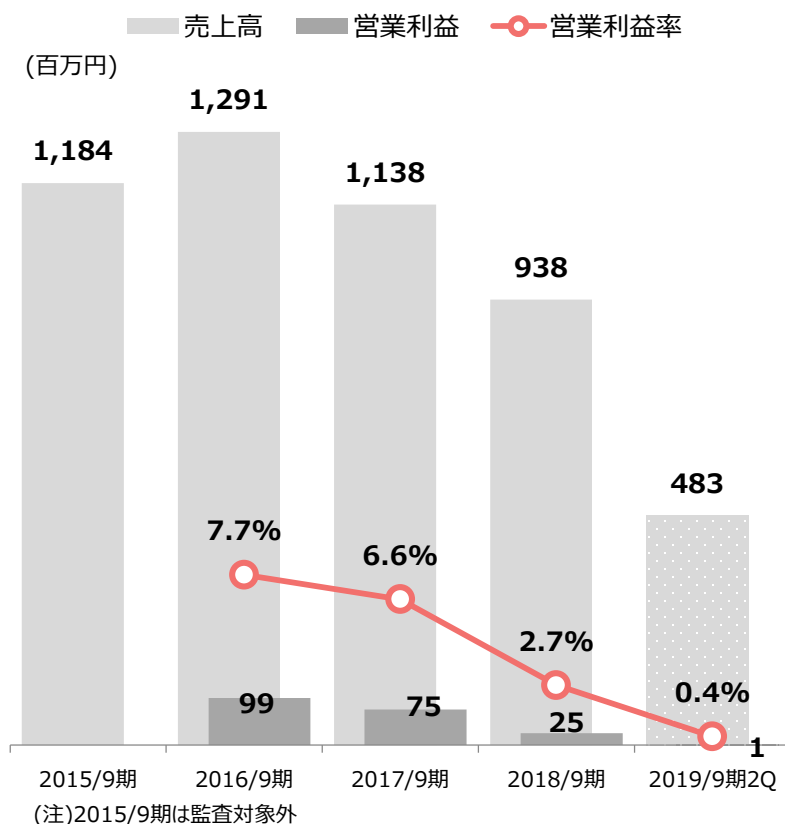
主な変動要因

- ① **産業機械関連：期初想定より若干の上振れ**
 - ✓ エンジニアリング会社からの二次電池製造装置受注が好調継続。一部製品で下期分の前倒し出荷も発生（通期受注は据置）
 - ✓ 自動車関連分野の広がりなども継続
- ② **食品機器関連：ほぼ期初想定通り**
 - ✓ 人手不足による厨房省力化需要は堅調
 - ✓ 主力製品マルチディスペンサーの受注は拡大
- ③ **知名度向上**
 - ✓ 上場を機に新技術などに関してWEB検索数が上昇
 - ✓ 上場公表前6ヶ月間(3月～8月)の月間平均閲覧件数と比較すると、上場後7ヶ月間(9～3月)のそれは1.6倍に増加

セグメント別事業の状況 ③コンシューマセグメント

- 電力買取価格引き下げにより大型ソーラー発電システム案件が減少
- 葬祭向け特殊畳なども競合企業の進出が影響し、売上はやや伸び悩み

売上高・営業利益・営業利益率



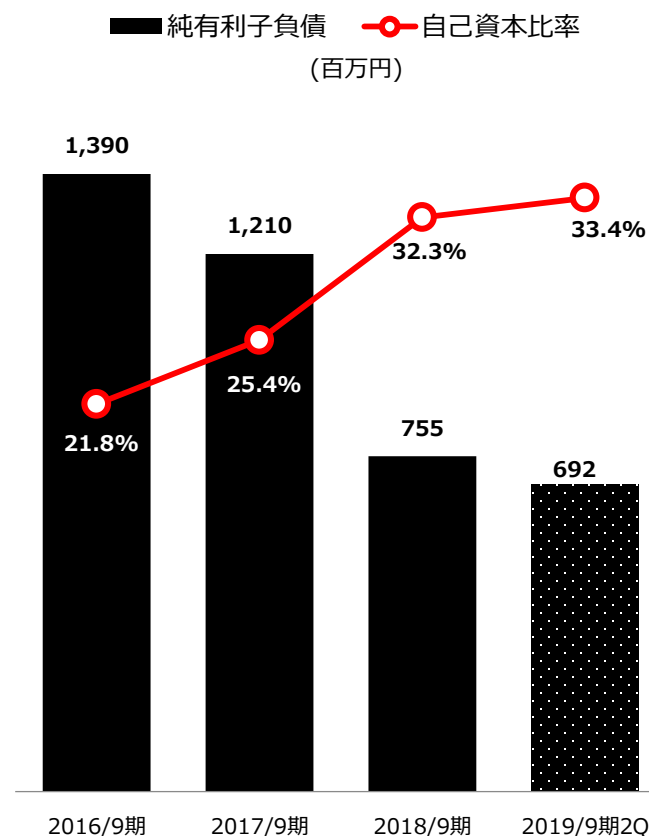
主な変動要因

- ① **ソーラー・エネルギー事業：従来想定より未達**
 - ✓ 電力買取価格引下げ続き、大型ソーラー発電システム案件減少が長期化
- ② **特殊畳**
 - ✓ 上場による知名度向上を追い風に、個人向けネット販売等が増加傾向
 - ✓ 従来からの畳のイメージを脱し、畳床の防音・防振機能に着目して開発した「ジムボード」等の新商品が好調
 - ✓ しかし、葬儀向けなどは後発企業の進出があり採算性低下
- ③ **売電**
 - ✓ 天候に左右されるものの、安定した操業で堅調に推移

バランスシートの状況

- 上場により、自己資本比率は33%台まで上昇。財務安定性は急速に改善
- 純有利子負債は6億円台にまで縮小。ここまでの水準は1988/9期以来、31年ぶり

(百万円)	2017/9期	2018/9期	2019/9期 (第2Q)
流動資産	5,031	5,266	5,059
現預金	1,349	1,555	1,571
売掛債権	2,541	2,780	2,450
棚卸資産	1,055	920	1,026
固定資産	2,478	2,695	2,690
総資産	7,510	7,962	7,750
負債	5,604	5,388	5,160
買入債務	2,004	1,920	1,944
有利子負債	2,560	2,311	2,263
純資産	1,906	2,573	2,590
負債純資産合計	7,510	7,962	7,750

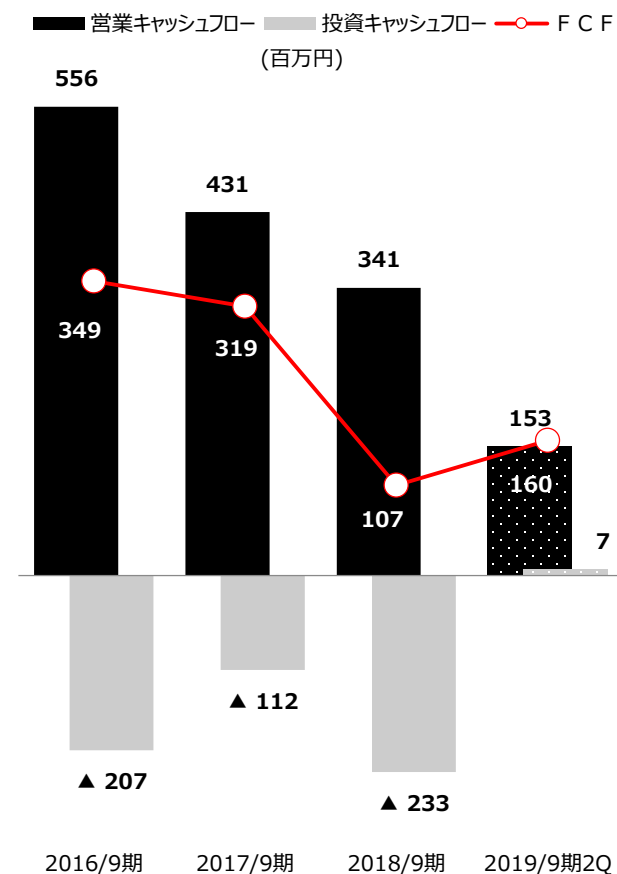


キャッシュフローの状況

- 設備投資が端境期となったため、上期のFCFは一旦大幅に拡大。借入返済も進み、財務安定化に貢献
- 当上期の設備投資額は80百万円。減価償却費は55百万円

(百万円)	2017/9期	2018/9期	2019/9期 (第2Q)
営業CF	431	341	153
投資CF	▲ 112	▲ 233	7
固定資産取得	▲ 181	▲ 210	△ 42
FCF	319	107	160
財務CF	▲ 422	102	△ 90
借入金の返済等	▲ 375	▲ 375	△ 93
株式発行収入	-	372	55
配当金支払額	▲ 21	▲ 21	△ 52

* FCF=営業CF+投資CF で算出





◆ プロフェッショナルセグメント

従来見直し **2.8** 億円 → 修正見直し **1.7** 億円

- ① インテリア製品などの売上想定引下げ ▲0.9億円
- ② インテリア製品販促費の上乗せ他 ▲0.1億円
- ③ 運送費想定の上上げ ▲0.1億円

◆ コンシューマセグメント

従来見直し **0.7** 億円 → 修正見直し **0.4** 億円

- ① 売上想定引下げ ▲0.1億円
- ② 販促費、運送費の上上げ他 ▲0.2億円

◆ インダストリーセグメント

従来見直し **1.3** 億円 → 修正見直し **1.3** 億円

2019年9月期決算見通し

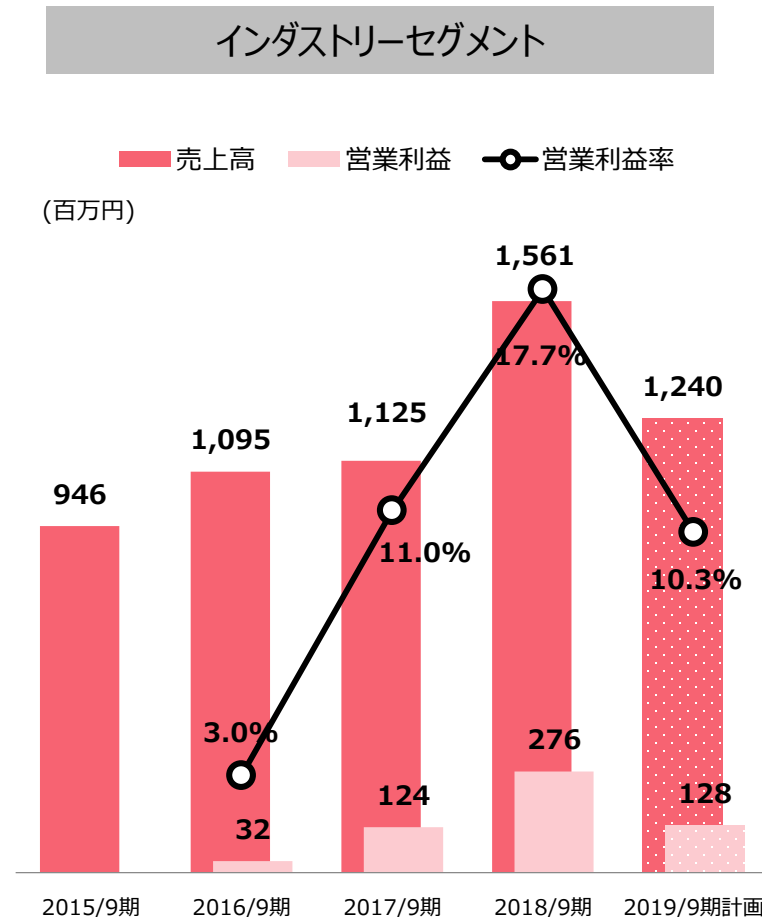
- 増収減益に見通しを修正。売上面では、インダストリーセグメントでは現在確定している案件のみを見通しに計上。一方、プロフェッショナル・コンシューマの2セグメントは増収見通しながら、拡大ピッチは期初想定より鈍化
- 利益面では、増収効果あるも、販促費上乘せや運送費値上がり等の影響を織り込み、減益見通しへ

(百万円)	2017/3期	2018/9期	2019/9期		2018/9期→2019/9期		2019/9期
			期初見通し	修正見通し	差異	増減率	期初→修正 差異
売上高	8,891	9,014	9,400	9,200	+186	+2.1%	▲200
プロフェッショナル	6,628	6,514	7,110	6,910	+396	+6.1%	▲200
コンシューマ	1,138	938	1,080	1,050	+112	+11.9%	▲30
インダストリー	1,125	1,561	1,210	1,240	▲321	▲20.6%	+30
営業利益	432	423	477	334	▲89	▲21.0%	▲143
プロフェッショナル	233	121	277	168	+47	+38.8%	▲109
コンシューマ	75	25	73	38	+12	+48.0%	▲35
インダストリー	124	276	127	128	▲149	▲54.0%	+1
経常利益	389	381	440	295	▲86	▲22.6%	▲145
当期純利益	245	303	264	196	▲107	▲35.3%	▲68
営業利益率	4.8%	4.7%	5.0%	3.7%	▲1.0P	-	▲1.3P
経常利益率	4.4%	4.2%	4.7%	3.2%	▲1.0P	-	▲1.5P

2019年9月期決算 セグメント別見通し①

- 2Q実績は修正見通しに対し、売上で46%、営業利益で24%の進捗。ややスローだが、①補助金など期ズレ要因の発生、②下期からの販促効果発現、③インダストリー想定は現時点で確実な案件のみ、を考えると、挽回可能との見通し
- インダストリーセグメントでは、今後新たに獲得する受注があれば、売上上振れ要因に

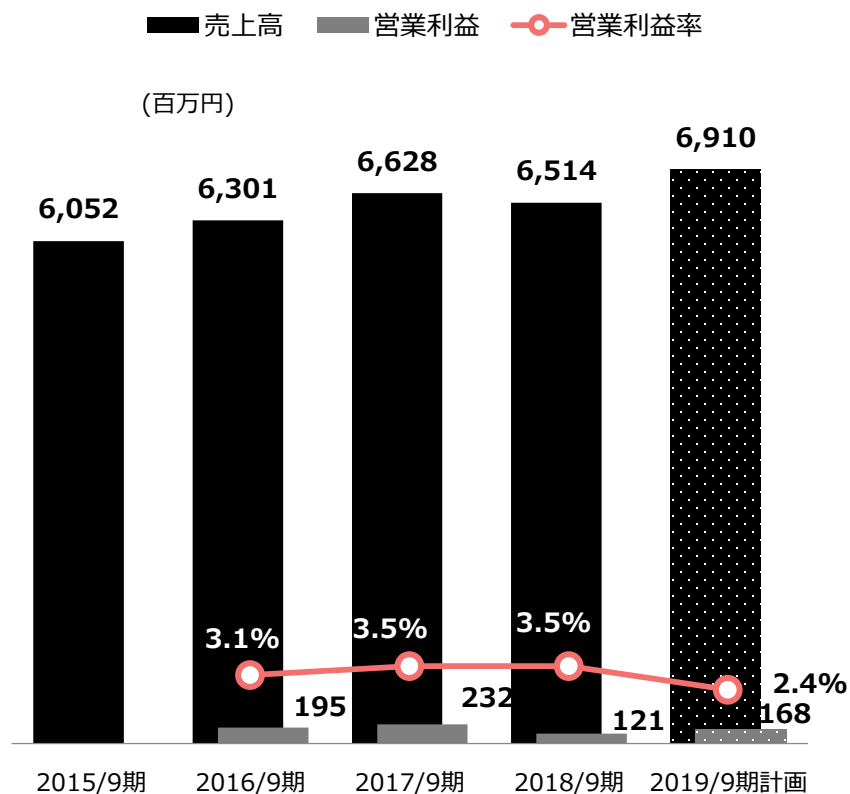
(百万円)	2019/9期		
	2Q実績	通期見通し	進捗率
売上高	4,262	9,200	46.3%
プロフェッショナル	3,218	6,910	46.5%
コンシューマ	483	1,050	46.0%
インダストリー	560	1,240	45.2%
営業利益	81	334	24.3%
プロフェッショナル	20	168	11.9%
コンシューマ	2	38	2.7%
インダストリー	59	128	45.7%
経常利益	58	295	19.7%
当期純利益	29	196	14.8%



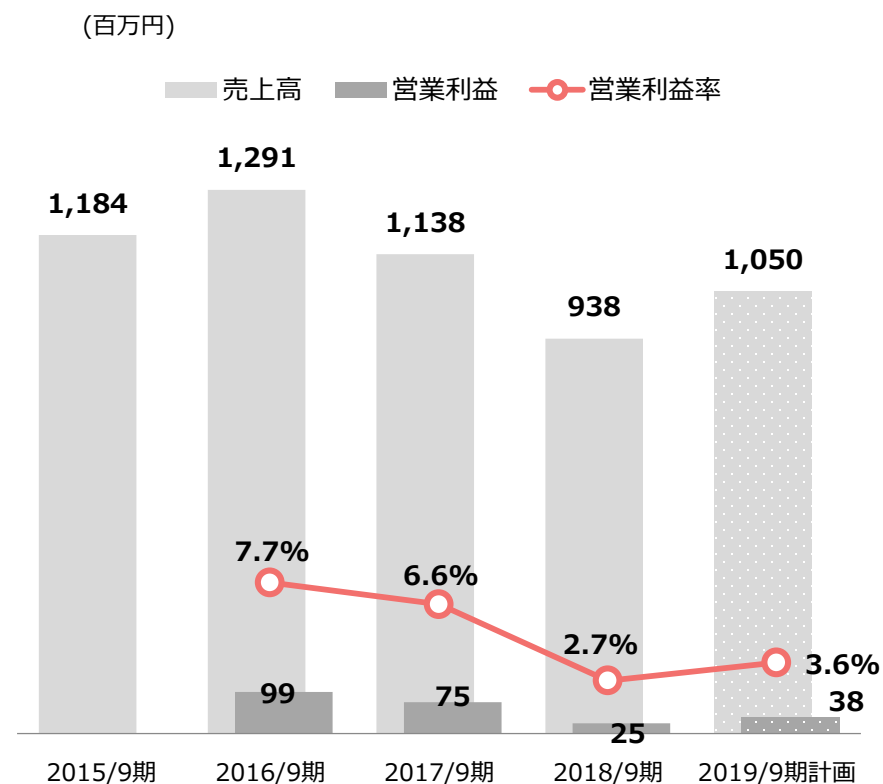
2019年9月期決算 セグメント別見通し②

- プロフェッショナルセグメントでは、インテリア製品の販促浸透や畳関連の補助金問題一巡から下期回復を想定
- コンシューマセグメントでは、ソーラー発電システムの低迷は継続も、採算性の高い特殊畳などの伸長を想定

プロフェッショナルセグメント



コンシューマセグメント



< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
管理本部総務部 IR担当
0791-62-1771 (代表)
ir-info@kyokuto-sanki.co.jp